

## 2021 年度前・後期 授業改善アンケート集計結果に対する意見

—経済学部—

学部長 増川 純一

2021 年度授業は、ほとんどの講義科目は遠隔で実施された。

アンケートは、すべての科目で Web 上での実施のため、例年の授業時間内でのアンケート実施に比べ低い回答率(2割程度)となっている。

ここでは、2020 年度前期から 2021 年度後期にかけて実施されたアンケート結果の経時的変化に注目してコメントしたい。

大学全体に関して、設問 1～12 のほとんどすべての項目で、継続的なスコアの上昇が見られることが特徴的である。特に、

- ・設問 1「円滑に授業を受けることができた」2020 年度前期 4.13、2021 年度後期 4.48 と上昇している。これは、履修者、科目担当者双方が遠隔授業の経験を積んだ成果であろう。
- ・設問 3「教員は毎回の授業ごとに十分な指示を行っていた」が 2020 年度前期 4.05、2021 年度後期 4.43 と大きく上昇している、同様に設問 4「教員の指示は明確で分かりやすかった」が 2020 年度前期 3.98、2021 年度後期 4.37、設問 12「教員の授業資料は見やすかった」が 2020 年度前期 3.96、2021 年度後期 4.30 と大きく上昇している。担当教員の意識の向上と努力によるものと考えられる。
- ・設問 7「教員は遠隔授業のツールを適切に使っていた」が 2020 年度前期 4.03、2021 年度後期 4.32 と上昇している、同様に設問 8「教員との双方向のやりとりが十分にあった」が 2020 年度前期 3.71 と低かったのに対して、2021 年度後期 4.26 と大きく改善している。
- ・また全体としての評価である設問 10「この分野への興味・関心が引き起こされた」が 2020 年度前期 3.93、2021 年度後期 4.18 と上昇し、設問 11「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」が 2020 年度前期 3.98、2021 年度後期 4.33 と上昇し、2019 年後期 4.14 を若干上回っているのが印象的であった。

経済学部に関しても、設問 1～12 全てでスコアが継続的に上昇していることが特徴的である。特に、

- ・設問 1「円滑に授業を受けることができた」2020 年度前期 4.05、2021 年度後期 4.44 と上昇している。
- ・設問 2「この授業の内容を理解するために努力した」が 2020 年前期 4.29、2021 年度後期 4.44 と上昇している。
- ・設問 3「教員は毎回の授業ごとに十分な指示を行っていた」が 2020 年度前期 3.97、2021 年度後期 4.40 と大きく上昇している、同様に設問 4「教員の指示は明確で分かりやすかった」が

2020 年度前期 3.88、2021 年度後期 4.33、設問 12「教員の授業資料は見やすかった」が 2020 年度前期 3.86、2021 年度後期 4.23 とこれも大きく上昇している。担当教員の努力が見られた。

- ・設問 7「教員は遠隔授業のツールを適切に使っていた」が 2020 年度前期 3.93、2021 年度後期 4.25 と大きく上昇している、同様に設問 8「教員との双方向のやりとりが十分にあった」が 2020 年度前期 3.72 と低かったのに対して、2021 年度後期 4.21 と改善している。
- ・また全体としての評価である設問 10「この分野への興味・関心が引き起こされた」が 2020 年度前期 3.79、2021 年度後期 4.11 と上昇し、設問 11「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」が 2020 年度前期 3.88、2021 年度後期 4.24 と上昇し、2019 年後期 4.01 を上回っている。

遠隔授業の事初めであった 2020 年度と比しても 2021 年度は満足度の高い授業が行われたといえる。それは、学生や科目担当教員双方が遠隔授業の経験を積んだことによる技術と意識の向上に伴ってもたらされたものと思われる。大学全体でも経済学部単独でも「総合的な満足度」を問う設問 11 のポイントが 2019 年後期と比べても上回っていることは遠隔授業そのもののメリットを示しているようにも思われる。

以上